

[アグリカルチャー]

# Agriculture

by Water-n

下水道広報  
プラットフォーム  
広報大賞2020

準グランプリ



vol. 9

# 株式会社 極東技工コンサルタント

第9回



いろんな分野を扱う仕事は大変だけど飽きません！

学生時代に学んだことを活かします！

「水と環境を守るプロフェッショナル」として、下水道の未来を支えるお二人を直撃！

浜田尚宏さん

入社17年目。東京本社の東日本技術本部に所属。大学の先輩の影響で、会社の門を叩いたそう。入社後に水コンサルタントの魅力に目覚めたんだとか。

いかり 庵愛美さん

入社11年目。浜田さんと同じく東日本技術本部に所属。卒業論文で「下水道の継続性」をテーマにするなど、学生時代から下水道に関心があったそう。

「二人とも1社目なんですけど、仕事が面白いから続けられるんだろうなって思います」と話す浜田さん(左)と庵さん。

上下水道、環境関連施設など「水」に関する施設の整備計画から設計、施工管理までを担う、極東技工コンサルタント。下水道の設計業務に携わってきたお二人にお話を伺いました！



お二人の現在の  
お仕事内容について  
教えてください！

浜田 主に、老朽化が進んでいる下水道施設を更新する設計業務を行っています。実は「水コンサルタント」(水コン)は工事を行うわけじゃないんです！ 事業責任者である自治体の相談役になって、期間や予算などを折衝しながら、最適な設計プランをご提案するのが僕たちの役割です。

庵 街中に張り巡らされている下水道管のどこから調査を始めるか計画を立てて、実際の調査や診断、工事の実設計までを担当することもあります。下水道の老朽化対策の他にも、浸水対策やハザードマップを作るのも仕事です。

お仕事をされる中で、  
水に対する意識は  
変わりましたか？

浜田 下水道管の中に実際に入ったことがあるんですけど、なんとも言えない感覚になったんです。「これ、流されたら死ぬな」って(笑)。その時、僕ら以上にこの場所で働いている方のおかげで下水道の機能

が発揮できるって思ったら、意識が変わりましたね。油は下水道管のつまりの原因になるので、極力流さないようにしようと思えました。

お仕事の魅力や  
やりがいを  
教えてください！

庵 水理学や構造力学、土質学、そういう分野を少しでも勉強していれば、仕事にそのまま活かれます。私自身工学部出身なのですが、学生時代の勉強を仕事に役立てられているのが嬉しいです。

浜田 水コンの業界は、取り扱う分野が多くて。汚水処理は生物や化学ですし、水の流れは水理学、管路を敷設しようと思ったら土質や構造力学も理解していないといけないし、法律も知る必要がある。扱う分野が幅広いから、奥が深いんです。自治体からの質問にばつと答えを返せるコンサルタントになるうとすると、やってもやっても勉強が終わらない(笑)。そう言うのと大変そうに思われちゃうかもしれないですが、その分やりがいがあるので、ずっとこの業界で働いていくのになって思います。



「お客様からの問い合わせには、質問に至った背景まで想像して答えるようにしています」(浜田さん)



「業務外のことでも『ちょっとこれ教えて』とか、お客様に頼ってもらえるのがうれしいです」(庵さん)



続く！